



2011年9月1日

お客様向け資料

BNP パリバインベストメント・パートナーズ株式会社

ブラジルの政策金利の引き下げについて

ブラジル中央銀行は、現地 2011 年 8 月 30 日・31 日に開催された COPOM（定例金融政策委員会）において、Selic（政策金利）を 0.5%引き下げ、年率 12.0%とすることを決定したと発表しました。

今回の決定はブラジル中央銀行においても全会一致ではなく、賛成票 5 票に対し、（12.5%に）据え置き支持が 2 票でした。

ブラジルでは内需主導の経済成長を背景とした住宅価格などの上昇や、7 月失業率が 6.0%に低下するなど、労働市場の逼迫により、インフレ圧力が高まっています。

ブラジル中央銀行はインフレ抑制のため、2011 年は年初から年 7 月末まで、5 回連続で合計 1.75%の Selic の引き上げを行ってきました。

しかしながら、世界経済の減速傾向が鮮明になるなか、ブラジルの 6 月鉱工業生産は前月比 1.6%低下したほか（7 月は同 0.5%増）、8 月の消費者信頼感指数も前月比 4.6%低下するなど、ブラジル経済は足元で急速に減速していると見られます。

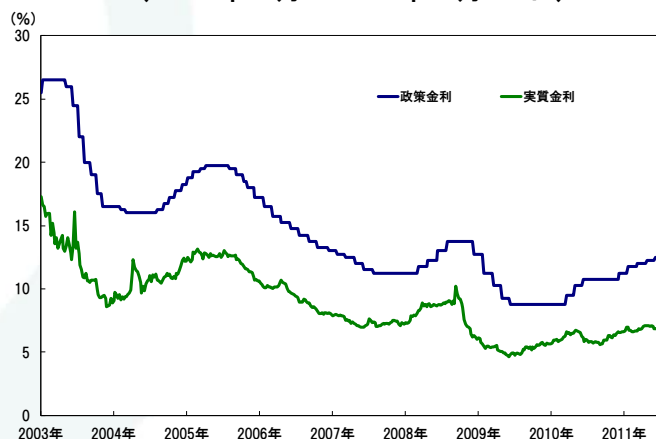
一方、ブラジル政府は去る 8 月 29 日、今年の基礎的財政収支の黒字目標を GDP の 0.25~0.36%に相当する 100 億レアル（63 億ドル）引き上げ、歳出を抑制する姿勢を示しましたが、これにより、金利の引き下げ余地が生まれたことから、ブラジル中央銀行は、国内の景気に配慮し、引き下げを決定したと考えられます。

ただ、7 月の IPCA（拡大消費者物価指数）は前月比+0.16%、前年同月比は+6.78%と政府目標上限（4.5%±2.0%）を超えており、インフレの鎮静化には至っていません。したがって今後は、歳出削減など、金利引き上げ以外の方法も用いてインフレ抑制を図るものと見られます。

ブラジル経済の中長期的な成長期待は高いものの、足元では、欧州債務危機によるリスク回避の流れや、世界経済の鈍化懸念、商品市況の下落の影響等も想定されます。

年内は、あと 2 回 COPOM の開催が予定されていますが、国内景気の動向によっては、追加利下げが行われる可能性もあることから、当面は株式市場、為替市場を含め、慎重な見方をとってまいります。

ブラジル政策金利と実質金利の推移
(2003年2月~2011年8月31日)



2011年8月31日
12.50% → 12.00%へ
0.50%の引き下げ

*政策金利：Selic を使用。
*実質金利：名目金利とインフレ率を使用し算出

本資料は、BNP パリバアセットマネジメントブラジルが作成した資料をもとに、BNP パリバインベストメント・パートナーズ株式会社が、ブラジル市場に関する情報を提供することを目的として、2011年9月1日に作成したものであり、法律に基づいた開示資料ではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の数値、図表、見解や予測などは本資料作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。尚、本資料中の過去の実績に関する数値、表、見解や予測などを含むいかなる内容も将来の運用成績を保証するものではありません。